

中学校国語科学習指導案

1 日 時 平成 23 年 7 月 11 日 (月)

2 学年・組

3 場 所

4 単 元 名 豊かな言葉「短歌を味わう」・学習を広げる「短歌十二首」

5 単元について

○教材観

短歌は万葉集の時代からその形式があらわれ、日本の人々にとってなじみの深い、また大切にしていきたい我が国固有の伝統文化の一つである。五・七・五・七・七の五句 31 音に詠み手の想いを凝縮させる手法は、映像に頼りすぎる現代の私たちに、言葉の美しさ、言葉を使うことで生まれる想像力の大切さを訴えかけるようである。

小説や詩などと違い、わずか 31 音という短い言葉の中で、先人はどのように言葉を使って心情を表し、自然の美しさを表したのか。短歌を学ぶことは、生徒たちが言葉と感情のつながりを学ぶ良い機会であると考え。長い説明がない作品から、その時代背景や生き方・音・色・景色などを想像し、その短歌に対する考えをイメージし自分なりの言葉に表すことは、表現の工夫に目を向けながら文章の内容を理解しようとする力がつくであろうと考える。そして、なぜ自分はそう感じたのか理由を明確にしながらかくことで、言葉に対するさらなる興味や、表現力の育成、ひいては自らの創作意欲にもつながるのではないだろうか。

本教材では、短歌に深くかかわってきた筆者が、北原白秋・正岡子規・石川啄木の三首をとりあげ、心情や生活を、表現に着目し読み取って鑑賞文としてまとめている。歌人を代表する特徴的な三者の短歌からは、短歌の基本的な表現技法を学ぶことができ、鑑賞文においては、生徒たちがのちの「短歌十二首」から作品を選び、それぞれのイメージを言葉に表す時の参考となるであろうと考える。また「短歌十二首」では明治から昭和・平成にかけてそれぞれの時代で代表的な作品が取り上げられている。自分たちが知らない過去の世代の作品から、現代の言葉で書かれた親しみやすい短歌にまんべんなくふれることで、短歌に対する興味・関心や豊かな想像力・表現力を育てることができる教材である。

○生徒観

生徒たちは、小学校の教材で一度は短歌や俳句について学習しており、短歌についての知識はある程度持っている。ただ、その表現に着目して分析的に読み取っていったり、気持ちを推察したりしながら短歌を読む学習経験は少ないと思われる。

4 月に実施した N R T では、「書くこと」において、ある項目で無回答率が 18% であった。しかし、書く内容を明確に指示した授業においては、無回答率は 1 割以下で、内容も充実しているものが多い。無回答率が高い原因として考えられるのは、書くことに対する抵抗感というよりも、どのように書いてよいのかわからない、ということが挙げられる。また、授業の交流の場面においても、「自分の意見を言う時に言葉が見つからない」「どのような言葉を使ってどのように表現すればよいのかわからない」という生徒のつぶやきも見受けられる。

本学級の生徒は、男女とも活発で反応もよく、答えが明確なもの、自信があるものに関しては発言が多い。しかし、自分の考えを述べることや、答えに自信がないものに関しては発言するものは固定化されており、発言する生徒も少ない。また、自分の立場を明らかにして書くことはできるが、意見と根拠を混同して書いたり、同じことを繰り返し書いたりする生徒も見受けられる。

○指導観

表現の仕方に目を向けるためには、表現技法、文学史など短歌の基本的な知識を学ぶことが必要である。また、筆者が鑑賞文で短歌をどのように分析しているかを学ぶことで、短歌を選ぶときのポイントとなる視点やキーワード（表現から読み取れる季節、色、音、）をどのようにとらえていけばよいのかを押さえさせる。

また、ただ与えられた短歌について鑑賞文を書くよりも、自分の好きな短歌を選び、それについて自分なりにイメージすることで、短歌に対する興味・関心を育むことができると思う。時代ごとに分けた中から一首ずつ三首選び、それを関連させ情景や登場人物、ひいては物語をイメージさせることで、言葉と心、言葉と情景のつながりを学習させる。

書き方を明確にするために、ひな形を提示するなどワークシートを工夫し、発表においては、まず少人数での交流をして発表に対する抵抗感をなくし、全体で発表させたい。

6 単元の目標

- 短歌作品にふれ、語句や表現から情景や心情を思い浮かべまとめることができる。
- 短歌の表現技法の特徴や、独特の表現の仕方、その効果に注意して読むことができる。

7 単元の指導と評価規準

| 関心・意欲・態度 | 書く能力 | 読む能力 | 言語についての知識・理解・技能 |
|---|--|---|---|
| ○短歌を読み味わい、短歌独自の世界や表現に興味・関心を持ち、自分が共感する短歌を選ぶ。 | ○作品の背景を踏まえながら、自分自身が共感した三首を選び、なぜそれを選んだのか根拠を持って書く。 ○三首のつながりをどのようにイメージしたのか情景などを書いて表現する。 (B かくこと ウ) 言語活動例 ア | ○短い詩形に表れた語句や表現から、情景や作者の心情を思い浮かべ、そのイメージをとらえる。 (C 読むこと ア) 言語活動例 ア | ○作品を通して、語句の効果的な使い方や、表現の美しさなどを学び、自らの作品に活用する。 |

| | | | その時間の目標 | 学習活動 | 関心 意欲 態度 | 書く 能力 | 読む 能力 | 知識 理解 |
|----|-----|------------------|----------------------------------|---|----------------|----------|----------|----------|
| 1次 | 第1時 | 短歌について理解を深める。 | ・短歌を読み、基本的な表現技法を理解することができる。 | 短歌の歴史や基本的な表現技法などをまとめる。 | ○ | | | ○ |
| | 第2時 | | ・鑑賞文がどのような視点から書かれているかとらえることができる。 | 鑑賞文では、どのような視点から作品をとらえているか学ぶ。 | | | | |
| 2次 | 第1時 | 短歌を読み、好きな作品を見つけ、 | ・選ぶ視点をはっきりさせながら短歌を三首選ぶことができる。 | 短歌十二首から自分の共感する三首を、キーワードや根拠をもとに選んで関連付ける。 | ○ | | ○ | |

| | | | | | | |
|-------------|------|---------------------------------|--|--|---|---|
| 第2時 (本時) | 表現する | ・三首に共通するイメージを、自らの言葉で表現することができる。 | 三首の組み合わせからイメージをふくらませ、情景や登場人物を考えたり、物語を作ったりし、交流する。 | | ○ | ○ |
|-------------|------|---------------------------------|--|--|---|---|

8 第2時

(1) 本時のねらい

・どのようなイメージやキーワードから短歌三首を関連付けたのか明確にし、それをもとに情景や登場人物を設定し表現・説明することができる。

(2) 本時の評価基準

| 評価規準 | 十分満足できると判断できる基準 | 概ね満足できると判断できる基準 | 努力を要する生徒への手立て |
|--|--|--|---|
| ・短歌十二首から視点をはっきりさせながら選んだ三首の共通するイメージを描き、情景や登場人物を設定し、表現・説明することができる。 | ・短歌十二首から視点をはっきりさせながら選んだ三首の共通するイメージを描き、情景や登場人物を設定するだけでなく、物語を書いて、進んで表現・説明することができる。 | ・短歌十二首から視点をはっきりさせながら選んだ三首の共通するイメージを描き、情景や登場人物を設定し、表現・説明することができる。 | ・キーワードやイメージの例が書かれたワークシートを使い、既習事項を参考に書くよう指導する。 |

(3) 準備物

・ワークシート、テレビ、教材提示装置

(4) 指導過程

| | 主な発問・指示 | 学習活動 | 教師の指導と評価 |
|----|--|--|---|
| 導入 | ◆前時の振り返りをしよう。 | ・前回の学習で選んだ三首がどのようなキーワードや根拠で選ばれたものかはっきりさせる。 | ○前時のワークシートを参考に振り返るよう指示する。 |
| 発展 | ◆学習の流れを確認しよう。 | | ○学習の流れを伝える。 ①自分の考えをまとめる。 ②小グループで交流し、面白い作品を1つ決める。 ③全体で発表し、交流する。 (発表の仕方を提示しておく) |
| | ◆どのようなキーワードから短歌三首を関連付けたのか明確にしながら、イメージを膨らませ、情景や登場人物を考えてみよう。 | ・前時で関連付けた内容をもとに、ワークシートに自分の考えをまとめていく。 | ○考えをまとめられない生徒には、辞書を使用させたり、いくつかのイメージを提示したりして支援する。 ○書く時間をたっぷり確保する。 |

選んだ短歌を関連付けて、情景や登場人物などを想像しよう

| | | | |
|-----|-----------------------------------|--|--|
| | <p>◆小グループで交流しよう</p> <p>◆発表しよう</p> | <p>・ワークシートをもとに、小グループで交流する。</p> <p>・小グループの交流の中で選ばれた作品を発表する。</p> | <p>書 <u>共通するキーワードを明確にし、イメージを膨らませ、情景や登場人物を設定し、ワークシートに記入している。</u></p> <p>○グループ活動では役割分担を行うように伝え、グループの中から、一番わかりやすかった作品を選び、発表するよう指示する。</p> <p>○発表の仕方の話型を提示し、支援する。</p> <p>言語力の目当て表から</p> <p>○自分はなぜそのようにイメージするのか、根拠（共通するキーワードなど）を明確に示しながら発表をするよう指導する。</p> |
| まとめ | ◆本時の振り返りをしよう。 | ・本時のまとめをワークシートに記入する。 | |

(5) 板書計画

| | | |
|--|--|---|
| <p>※どちらの発表でも、自分はなぜそのようにイメージしたのか、根拠を明確に！！</p> | <p>発表の仕方 〔パターン1〕 私が選んだ短歌は〜です。 この三首からイメージする〜について説明します。 登場人物は〜（以下、説明をする。） 〔パターン2〕 私が選んだ短歌は〜です。 この三首からイメージした物語を朗読します。</p> | <p>短歌を味わう 玉城 徹</p> <p>☆選んだ短歌を関連付けて、情景や登場人物などを想像しよう。</p> <p>○学習の流れ</p> <p>①自分の考えをまとめる。</p> <p>②小グループで交流し、おもしろい作品を一つ決める。</p> <p>③全体で発表し、交流する。</p> |
|--|--|---|